

－岐阜県におけるがん検診受診率向上のための全国がん登録情報活用－

小平良子 牧山明資 瀧澤五月 杉山由花
岐阜大学医学部附属病院 全国がん登録室

■岐阜県のがんの概要

2019年岐阜県において、がん罹患数は、上皮内がんを除いた場合、男性9,062件、女性6,983件、男女計16,045件であった。
上皮内がんを含めた場合、男性9,945件、女性7,998件の男女計17,943件のがんが、新たに診断された。
上皮内がんを除いた罹患部位は、男性は胃が最も多く、前立腺、大腸（結腸・直腸）、肺と続いた。女性は、乳房が最も多く、大腸（結腸・直腸）、肺、胃と続いた。

がん死亡数は、男性3,554人、女性2,617人の合計6,171人であった。部位別では、男性は肺が最も多く、胃、大腸（結腸・直腸）、膵臓、肝および胆膵と続いた。女性は大腸（結腸・直腸）が最も多く、膵臓、肺、胃、乳房と続いた。

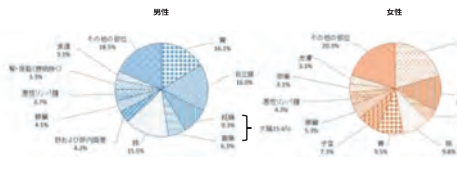
■目的

岐阜県ではがん検診受診率向上のための取り組みを推進している。全国がん登録のデータを県のがん予防施策に活用し、2021年に県全体の集計を活用してがん検診啓発リーフレットを作成した。今回、さらに市町村ごとの実情把握及びがん検診啓発に活用できる、可視化データ作成に取り組んだ結果について報告する。（男性の死亡の部位割合が多かった肺を中心に胃、子宮頸部を抜粋）

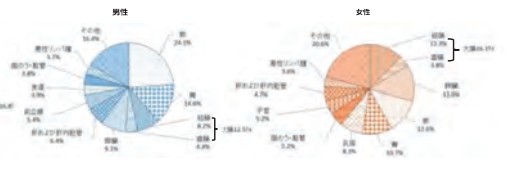
■方法

全国がん登録開始後の4年分の年次集計結果を利用し、①市区町村別年齢調整罹患率（人口10万対）、②市区町村別年齢調整死亡率（人口10万対）を算出する。
部位別（胃、大腸、肺、女性乳房、子宮、子宮頸部）、性別、市区町村別の①年齢調整罹患率、②年齢調整死亡率を2016-2017年の2年間と2018-2019年の2年間を比較したグラフおよび2017-2019年の3年間の分布地図を作成。

罹患の部位割合 (%) 上皮内がんを除く 2019年



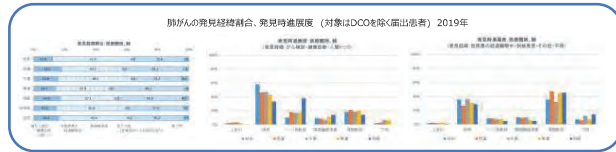
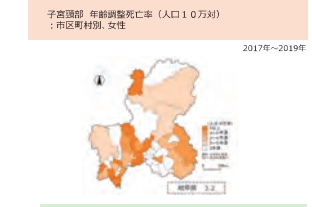
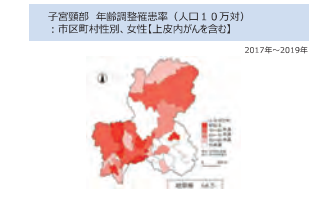
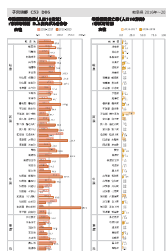
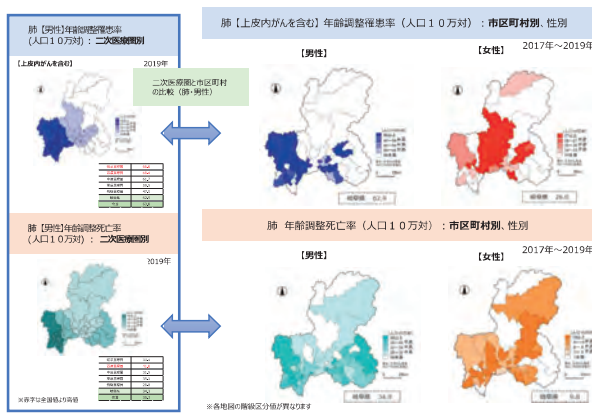
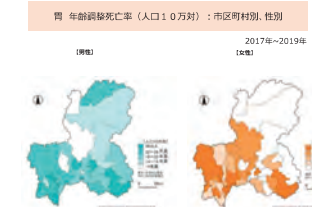
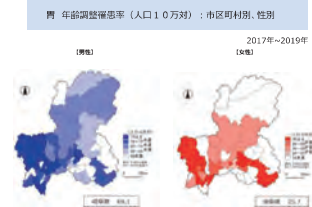
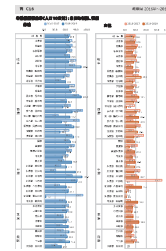
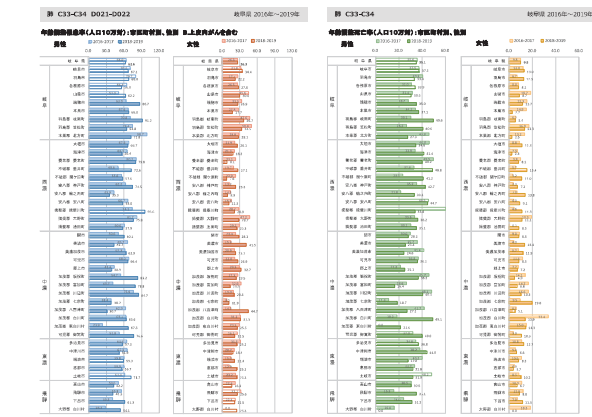
死亡の部位割合 (%) 2019年



がん検診啓発リーフレット 2021年3月発行

市区町村別の集計には、以下の数値を用いている。

- ・市区町村別の罹患数：岐阜県のがん登録平成28年（2016年）～令和元年（2019年）年次集計結果より算出
- ・市区町村別の人口：【出典】岐阜県環境生活部統計課「岐阜県人口・世帯数」（各年10月1日現在）
- ・基準人口：昭和60年（1985年）モデル人口



■結果

2018年次集計まで市区町村データは半年では比較が出来なかったため医療圏での比較を行っていた。複数年のデータを集計する事により市区町村の罹患率、死亡率の違いを地図により可視化できた。

■考察

データの活用は市町村において、対応に温度差がある。各市町村が検診の周知やがん検診受診率向上の取り組みの検討に活用しやすい情報の提示を行った。今後も市町村でさらに活用できるがん情報の提供を行ってきたい。

※日本がん登録協議会第32回学術集会 COI開示 単独講演者名：小平良子 当講演者に関し、開示すべきCOIはありません